

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの目標を立て、その目標に向け業務に努める。	ホーム内で決めた独自の理念を月1回のホーム会議の議事録に記載し、併せ唱和することで確認している。利用者や家族に対しては利用契約時に法人理念、ホーム理念について説明している。理念にそぐわない言動が職員にあった場合には本人より聞き取り、確認後、個人的に指導すると共に研修会において再発防止について周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りに行ったり喫茶店に行ったり地域に出ていったりしている。	自治会員として会費を納め、筑摩神社のお祭りに出掛け地域の方々と触れ合っている。南隣の法人デイサービスにボランティアの来訪がある際には利用者も出かけ交流の時間を持っている。毎年地区の保育園児が来訪し、踊りや歌を披露しており利用者も楽しみにしている。中学生の職場体験も引き続き2校、5名、5日間行われ、食事やレクリエーションの手伝い等を体験し利用者に関わりを持っていただき、壁には中学生より送られた記念の作品が飾られていた。地域との関わりについて、各方面と連携を進め積極的に展開して行こうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来ていないところなど話している。	2ヶ月に1回奇数月に家族代表、地域包括支援センター、別法人グループホーム管理者、ホーム関係者の出席で開催している。活動状況や事故の報告を行い、活動計画なども発表し、意見交換し、サービスの向上に繋げている。年2回は会議とともに避難訓練も行い、運営推進会議の議事録は家族に届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、認定調査員、地区担当ケースワーカーの方と情報交換を行っている。	地域包括支援センターと連携を取りながら様々な事柄について相談している。今後、なお一層連携を深め、地域との関係強化に向けて助言をいただき進めて行く予定である。介護認定更新の調査は調査員がホームに来訪しホームにて行い、立ち会われる家族も半数ほどいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期に会議などで研修会、勉強会を行い職員全員が身体拘束について理解を深め身体拘束をおこなわないケアにつとめている。	玄関は安全確保のため施錠している。現在拘束を必要とする利用者はいない。施設傾向の強い利用者があるが、本人の気の済むまで話を聞き対応している。安全確保と転倒防止を図るため家族と相談しセンサーマットを使用する利用者が三分の一ほどいる。言葉遣いには特に気を配り、スタッフ同士注意し合うようにし、ホーム会議時に研修会と話し合いを重ね、拘束のないケアに取り組んでいる。	

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会の機会を作り、虐待についての理解を深め、虐待のないサービス又日々の業務の中で虐待が見過ごされることないように努める。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる入居者様がないため日常生活自立支援事業、成年後見制度について今後勉強会の機会を持ち活用できるように取り組んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、十分な説明を行ない質問なども受け安心して納得して契約が行われるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時やお電話でお聞きし、運営に反映しています。	利用者と向き合い話を良く聞き、寄り添うことで気持ちを汲み取るよう心掛けている。家族の来訪は週に何回も見える方から半年に1回位まで様々であるが、来訪時には状況を報告し要望もお聞きしている。一週間に2回、昼食時に来訪され入居されている利用者と一緒に食事を摂り、話をして行かれる家族もいる。また、おやつ時間に来訪し一緒におやつを楽しまれて行く家族もあり、くつろいだ雰囲気作りに留意している。更に、誕生日や母の日には花やプレゼントを贈られる家族もいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム議ではなし合い反映していつている。	月1回ホーム会議とユニット会議を実施している。ホーム会議では連絡事項、意見交換、各種研修等、運営全般について実施し、ユニット会議ではモニタリングを含め利用者全般について話し合っている。法人実施の職員のスキルアップに向けたステップ1、2、3の試験がありこれに合わせ管理者による個人面談が行われ評価に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準、労働時間は規定どおり行なっている。 向上心がもてるように、努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に関われる研修会や講義の参加を促している。又職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングを進め、育成に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションを図りその会話の中から本人が感じている不安や意見を聞き入れ安心をすすめる為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の見学、事前の面談等家族との話し合いの時間を多く持ち、その中から不安や要望に耳を傾け関係図作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況又ご家族からの要望を聞きながら、その時必要としているサービスであれば、他のサービス利用を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりを尊重し、できることやって頂き、お互い協力し暮らしていく為の関係を築いていけるよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも面会にこられるような関係を作りをし、面会に来られた際はご家族とご本人の時間を大切にさせて頂けるよう環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけご本人と関わりの多い方に面会に来て頂けるような環境作りを行い、必要に応じてご家族に外出の相談を行っている。	友人の来訪がある利用者がおり、お茶をお出しし居室にて寛いでいただいている。電話や手紙を頂く方もおられ関係が継続するようお手伝いしている。毎年、年賀状を作成し家族にお出ししている。家族と同行したり、自からヘルパーを使い馴染みの店に買い物に出掛けたり、美術館に見学に行かれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でご利用者様一人ひとりが協力し合って生活が行えるよう、コミュニケーションの援助を行い、その中で関係作りができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了後もご家族からの相談等があればこれまでの関係性を大切にし援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をコミュニケーションの中から把握し、困難な場合は定期的な会議で話し合い、ご家族にも報告し検討していただいている。	はっきり意思表示の出来る利用者は三分の一ほどで、他の方は問いかけによる反応と行動等で希望を汲み取り支援に繋げている。お茶の時に複数のものを提案し選んでいただくようにしている。アセスメントシートに纏められた家族よりお聞きした生活歴や昔の趣味等にも目を通し、希望に沿った支援に取り組んでいる。また、通常と違う言動等を介護記録に残しケアプラン作成にも役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話し、ご本人の昔の話、思い出などを聞き、センター方式の記録を行い、経過を把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様、一人ひとりの生活状況、心身の状態を記録にし現状の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の課題について定期的にモニタリング、カンファレンスを行い、関係者からの意見やアイデアを反映させた介護計画書を作成している。	職員は1~2名の利用者を担当している。ユニット会議の席上モニタリングを行い、短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で見直しを行い、変化が見られた時には随時見直している。家族とは来訪時または電話にて話をするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様、一人ひとりの様子を日々の介護記録に記入し職員間で情報を共有している。又緊急を要するものは、その場で職員に介護方法を指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズを1つの考えに捉われず、色々な意見を聞くことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、ご本人が地域の中で安全で楽しく暮らしを送ることができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	四分の三の利用者はホーム協力医による月1回の往診で対応している。以前からのかかりつけ医の往診で対応する利用者や家族が受診にお連れしている利用者もいる。精神科については随時の往診対応で歯科とその他専門科目は家族または利用者自らヘルパーに依頼しての対応となっている。オンコール対応可能な契約の訪問看護師が火曜日と木曜日の週2回来訪し健康管理を行っている。病気やケガ等、緊急の際の情報は管理者に一本化され速やかに対応できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月4回の訪問看護により入居者様一人ひとりの、体調や状態の変化など、情報交換を行ない、適切な受診、看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は病院関係者の情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に本人の状態をご家族に報告し、現在の状態を把握していただく。ご本人、ご家族との話し合いの中で方針を共有し関係者のご本人やご家族が望む終末期の生活を送れるよう支援に取り組んでいる。	開設以来2名の方の看取りを行った。重度化については利用契約時にホームの考え方について話している。状況の変化に合わせきめ細かく何回も意向を確認するようにし、住み替えを含めて話し、医療行為を必要としない状況で家族より最終的に当ホームで最後までお願いされた場合に医師や看護師の指示を仰ぎながら支援に取り組むようにしている。なお、その状況に至った時には職員の勉強会を行い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変や事故発生時に備えて講習会、訓練を行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。事前に地域の方に報告を行い、情報交換を行うことにより、地域との協力体制を築いている。防災訓練記録に消防の指導、地域の方の意見等を記載し今後活かしている。	年2回消防署参加で防災訓練を行っている。通報訓練、消火訓練、避難訓練を行い、利用者も全員参加で名札と写真を首から下げ外へ出での訓練を行っている。また、水害想定訓練も実施し、全員2階へ避難する形で実施した。緊急連絡訓練では管理者より災害情報を携帯電話を使い全職員に一斉メールを流し訓練を実施している。「水」、「非常食」、「介護用品」等、三日分の備蓄がホーム内の倉庫に準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を重視し、プライバシーを尊重し、声がけに注意した対応をしている。	各利用者と気持ちの繋がった話をするよう心掛け、自分がされて嫌なことは絶対にしないということを支援の基本として取り組み、ホーム会議でも周知徹底している。利用者への声掛けは「さん」付けて、入室の際には声掛けとノックをして入るようにしている。介助されることに遠慮がちの方もいるので居室や浴室で1対1になりゆっくりと話をお聞きするようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表すことの出来るような声がけや、促しを行い自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日一日を希望に添ってその人らしい生活が送れるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の身だしなみやおしゃれに対する意欲がなくなるような声がけや環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることをやって頂き、役割を持つことで、食事を楽しく出来るよう支援している。	ほとんどの利用者が自力で食事を摂ることが出来る状況である。各ユニットのその日の調理担当者が食材を確認し献立を決め調理して提供している。食材は職員が一週間分の献立を考え、利用者の希望も聞き、昼と夜に肉と魚がダブらないように発注し足りない物は買い出しに出掛けている。お手伝いは利用者の力量に合わせ盛り付け、後片付、食器拭き等に参加していただいている。正月、花見、母の日、クリスマス等には特別食をお出しし食事を楽しんでいただいている。少人数に分かれ喫茶店にお茶とスイーツを楽しみに出かけることもある。また、家族と外食に出掛ける利用者も三分の一ほどいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調の状態や習慣に応じ、一日に必要な栄養バランス、水分量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔状態やご本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりトイレでの排泄が行えるよう、その方にあったトイレ誘導、声かけなどの支援を行っている。	自立の方が若干名で、一部介助の方が四分の三、全介助の方も若干名という状況でほとんどの方がリハビリパンツとパット使用という状況である。意思表示される方も数名いるが、食事前、午前、午後と、きめ細かく声掛けを行い排泄表に記録として残しスムーズな排泄に繋げるようにしている。人前で失敗することもあるが周りに分からないように配慮しトイレへお連れしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状態の把握を行なう。便秘の原因や及ぼす影響を理解し、バランスの取れた食事やヨーグルト、豆類、水分の摂取に努め、毎日の運動の機会により便秘予防に努める必要に応じ、薬も考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせて、スキップ1対1の会話など個々に添った支援を行い、入浴の時間を楽しくて頂けるよう努めている。	週2回入浴を行っている。見守りでの自力の方が数名、一部介助の方が半分、全介助が数名という状況である。入浴を拒否する方もいるが声の掛け方を変えたり二人介助にしたりして対応している。ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤等を使い、楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に合わせた休息ができ、安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を全職員が理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴や習慣を活かした役割を見つけ張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方に協力をしてもらいながら、ご本人の希望に添って外出の機会が持てるように支援している。	年々長い距離を歩くことが大変になりつつある。外出時に車いす使用の方が多くなって来ているが、日常的には1階のテラスに出て外気浴をしたり、隣のデイサービスに出掛けたりしている。また、筑摩神社に初詣に出掛け、また、同じ神社の夏のお祭りでは縁日や花火大会を楽しんでいる。季節に応じ少人数に分かれ、花見や秋の紅葉狩りなどに出掛けている。	

ニチイケアセンター松本筑摩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理をしているが、希望があればお金を使えるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族や友人などに連絡やお手紙のやり取りができるよう支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節に合わせて模様替えを行い、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激がなく居心地よく過ごせるよう努めている。	ホール兼食堂は南に面し陽当たりが良く明るい。壁には季節の飾りつけをしており訪問調査時には「節分」の飾りが施され、また、誕生日会や外出時の写真も飾られている。一日の内の長い時間を過ごす共用部分の空調はエアコンと床暖房で外は寒くても快適に過ごすことができ、ゆったりとされている利用者の姿を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の中で一人になれたり、仲間との時間を過ごしたりと思いに過ごせるよう、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人やご家族と相談を行い、使い慣れたものや馴染みのあるものを置き、今まで住み慣れた環境に近い空間で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	各居室には大きなクローゼットが備え付けられ、窓には防火カーテンも施され、綺麗に整理整頓された中で生活している。持ち込みは自由に使い慣れた家具、衣装ケース、テレビなどが置かれ、壁には家族の写真、誕生日カード等が貼られ、仏壇、お位牌なども置かれている居室が見られた。利用者一人ひとりに合わせ、ホームでの生活を自由に送れるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし、出来る事や、分かることを安全に行え、自立した生活が送れるよう工夫している。		